

けしよ多神大己貴命を正とせしむるやけ
令ハ三痛の明神なれも出湯のち護神
多し事我々の例なり——神代卷曰大
大己貴命與少彥名命戮力一心經營天
下復為顯見蒼生及畜産則定其療病之
方又為攘鳥獸昆虫之灾異則定其禁厭
之法是以百姓至今咸蒙恩賴云々

羽澤記十之卷曰嵐ヶ笑如茂浦吹浦の若花
出判関下の後穢を非及に貪みて往來の后
者を責常——とて板小敷多の軍勢——

押進立れりつりなれて苦患をな

飲し金津の政及神魚は遠のくもや一
（美言のたのしみは） 然し上への飲とめて湯治山の池前に大なる

葦唐竹のこころ出あてそふそふ人よ及ふ事

義光存生に限る今ハ——とそ名西齋疏

傳來記ハ又十三代 淳和天皇天長二年

に月中旬弘法大師高山を昇座——あつと

有り松引魚の内名川村ハ大石あり辨才

天を安んじ大師の勅讀とそまより二十

丁程行て又他化あり厚の如來といふ又一